

第24組 広報

発行日
2016年 1月1日
第169号
発行責任者
組長 美濃部俊裕

新しい年を迎えるにあたって

組長 美濃部 俊裕



明けましておめでとうございます。昨年は、組の教化事業などの実施に、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

教区では、2年後に勤まる宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の高札が立ち、長浜別院大谷会館等の修復工事行われます。

組教化委員会では、新しく設置され「真宗交流センター」を運営する本山企画調整局から講師を招き、全国の状況を踏まえた24組の特徴や課題についてご指導・助言をいただきました。また他教区の新しい取り組みについても聞くことができました。本組は、同朋会や日曜学校の設置率が高いこと、寺報などの文書伝導が積極的に行われていること、また報恩講の参詣者が減少した寺が30%と少ないこと（全国83%）などが大きな課題です。ご指導いただいたことを、今後活かしていきます。

次に、女性門徒会員の選出の推進についてです。これまでのところ、長浜教区では全体的に選出が進んでないようです。24組では、総会において選出の方法や役割について確認し、女性の選出について進めていくことを確認しました。皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

11年間に及んだ真宗本廟両堂等の御修復工事が完了し、3月31日には、ご本尊を阿弥陀堂にお戻りする「ご本尊還座式」が執り行われます。組でも団体参拝をしますので、ご参加ください。

今年も、組内の皆様の声に耳を傾け、その実情に即した事業を展開しようと考えています。どうかご協力をお願いします。

【お正月の「お内仏」のお荘厳】（東本願寺発行「お内仏のお給仕と心得」より）

- 打敷 ご本尊、上卓・前卓（祖師のご影等を奉安してあればそのご影前も）に打敷をかけます。打敷の色や模様には定めはありませんが、正月のことですから、明るい、まためでたい模様のものであれば一層よいでしょう。
- 花 お花は若松の真、それに梅、南天、熊笹・柳、椿、水仙、寒菊などを適宜にあしらって挿し交ぜといたします。上卓の華瓶は「密」です。
- お鏡餅 お正月はお華東ではなく、「お鏡餅」を各尊前、法名前にお供えいたします。「折敷」に杉原紙（白紙）を敷いて供えます。お鏡餅の上には、橙、蜜柑、金柑などその大きさに合ったものを2・3葉の葉付きのままのせます。



「門松や冥土の旅の一里塚

めでたくもあり めでたくもなし」

門徒会会長 安居 重晴（浄教寺門徒）

ご家族おそろいで、新しい年を修正会や神社にお参りされてお迎えになられたことと思います。

新年のご挨拶ではなかなかお念仏は申せないものですが、歳を一つ積み重ねて冥土に近づいていて、めでたくもないが、新年を迎えたことはめでたいような……。一休禪師がそんな人々の有様を皮肉って詠まれたものと思いますが、消えることのない煩悩を、行く年の数々の出来事とともに振り返って、自分自身を見つめ直し、与えられた命を大切に、悔いのない日々を送ることも大切ではないかと思えます。

昨年は、24組門徒会も皆さまのご指導、ご協力をいただきまして、就任1年を終えようとしています。この1年多くの皆様とともに御縁につかせていただきました。また、諸活動の中では、同朋会館での本廟奉仕や、東日本大震災被災者の方への義援活動、同朋大会、真宗講座等々でも多くの方のご参加を得て無事実施することができました。

本年度は女性門徒会員を新たに選出いただき門徒会に新しい風が吹き込まれることを期待し、数々の事業が多くの方のご参加を得て進められるように、皆さまのご縁を大切にさせていただけたらと思います。本年も皆様にとって良い年になりますようご祈念申し上げます。合掌

げんざしき

御本尊還座式 団体参拝の募集

24組門徒会・婦人会主催

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の特別記念事業として行われていた真宗本廟両堂等の御修復は、平成27年末に阿弥陀堂と御影堂門の工事完了によって、11年間に及ぶ大工事が完了しました。

これに伴い、今年3月31日には、仮阿弥陀堂に移されていた御本尊・阿弥陀如来像を阿弥陀堂にお戻りする「御本尊還座式」が執り行われます。24組では、この記念すべき還座式への団体参拝を計画いたしました。またとない仏縁ですので、多くの方の御参加をお願いします。

なお、申込者数によって計画を変更することがありますので、御了承ください。

- | | | |
|---|------|--------------------------------------|
| 1 | 期日 | 3月31日 (火) |
| 2 | 交通手段 | 貸し切りバス (2台) |
| 3 | 受付人員 | 80名 |
| 4 | 参加費 | 5,000円 (旅行保険代を含む) |
| 5 | 申込み | 参加費を添えて各寺院もしくは組長宅 (千田 来入寺) へお申込ください。 |
| 6 | 締め切り | 2月15日 (月) |

高月支所 8:15 —— 木ノ本駅 8:30 —— 木ノ本 IC 8:40 —— 京都東 IC 10:10 ——

—— 將軍塚青龍殿と青蓮院 10:30~11:45 —— 京都ハンディクラフトセンター (昼食) 12:15~13:15

—— 東本願寺 13:30~15:00 —— 大原・土井志ば漬本舗 15:30~16:00 —— 途中峠 ——

—— 真野 IC —— 志賀 IC —— 木ノ本駅 17:45 —— 高月支所 18:00

本廟上山奉仕に参加して

久保 治美（残景寺門徒）



秋晴れの中、10月24日・25日と、真宗本廟上山奉仕に参加させて頂きました。平成10年と11年に24組のお世話をさせて頂いた時以来で、3回目でございます。今回門徒会9名と婦人会13名が一緒にお参りしました。結成式に始まり諸殿拝観では、教導・補導さんが丁寧に説明して下さいました。オリエンテーション、お話し会、夕事勤行と続き、25日の朝は蓮如上人ご命日晨朝参拝でした。

清掃奉仕は本願寺より徒歩五分程の「渉成園」でありました。江戸時代に作られた立派なお庭で紅葉もきれいでした。本願寺諸殿拝観の時、「渉成園」の写真が飾ってあり、このような立派な所をお掃除させて頂けたらと思っておりましたので本当によかったです。

こうして2日間、日常の生活から離れ「テレビ・冷蔵庫のない生活」をし、門徒さん達と同朋会館で共に生活できたことを喜んでおります。又、仏法のお話をお聞きし遅くまで語り合うことができとても有意義な時間でした。そして、やはり「お内仏のある生活」がとても大事なことで思いました。

夜は広い部屋で休ませて頂きましたが、あっちの枕、こっちの枕という風に何か修学旅行を思い出すようでした。



お寺の外が一部工事中でしたが、来春には囲ってあるのも外され、より一層立派な本願寺を拝ませて頂ける事を楽しみにしています。本廟奉仕に寄せて頂きましたこと、そしてご一緒して下さいました婦人会の方々に感謝しております。有難うございました。



受け継がれるお念仏



浄教寺（高月町東阿閉）

浄土真宗にとってもっとも大切なお勤めである「報恩講」が、高月町東阿閉の浄教寺では、12月4日から6日の3日間お勤めされました。

同寺は、弘仁年間（810～824年）最澄上人の開基と伝わる歴史あるお寺で、慶長6年（1601年）に浄土真宗に転じ、宣如上人より阿弥陀如来絵像を下賜されています。それ以降聞法の道場としてご住職・ご門徒の弛まぬご努力によって護持され続けています。

さて、浄教寺の報恩講は11月中旬より準備を始められ、前日には内陣の荘厳（ご門徒による立派な仏花がたてられる）を終え翌日からの報恩講を待ちます。

2日目はお勤めの後、福井県越前町徳永寺住職の平等良香師（たいら かみそり ながこ）の「報恩講 今ここに」と題した法話があり、そのお話で「お剃刀」では3回剃刀を当てますが、これは名聞・利養・勝他（名誉欲・お金儲け・他者に勝つ）が1・2回では落とし切れないから3回行う、五障三従の正しい意味を実体験を交えながら解説、御本尊は色も無く形も無いが、仏さまを家の中心に置くそんな生き方を次の世代へとつないで欲しいと述べられました。50名程の門徒各位が熱心に聞き入っておられました。

また、60数年前からの日曜学校や夏休み中の一泊二日の合宿を重ねる中で、ご門徒の中から「子ども達にも報恩講にお参りして貰ったら」との意見があり、20数年前から2日目の夕方から「子ども報恩講」をお勤めしているとご住職より伺いました。実際には、定刻前から子どもたちが集まり、各自が数珠・真宗子ども手帳を持参して「子ども報恩講」が始まりました。

小さい子ども達も正座して合掌・大きな声で誓いの言葉・正信偈をつとめました。ご住職からは報恩講はお寺で一番大切な行事、何時もと違う内陣の荘厳、君たちが生まれてこれたのは本当に多くのご先祖さまがおられ、その多くの方々から命を受け継いでいる、みんな仲良く・命を大切にしてくださいとお話がありました。

ゲームがあり、最後に年番さん（5組が1年ずつ交代で務める）が作られたお講汁とお仏飯を頂き、子ども達は帰りにお菓子詰めめの袋を頂いて帰宅しました。取材 広報部 水上 喜久男



（平等良香師の法話）

